

# 中間評価シート

## 中間評価（表紙）

### 加賀市歴史的風致維持向上計画（令和3年3月23日認定） 中間評価（令和3年度～令和7年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保存・活用	3
II 歴史的町並み環境の保全・形成	4
III 伝統行事など伝統文化の継承及び・歴史的風致の情報発信と活用	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 景観整備等による観光入込客数の増加	6
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 錦城山公園修景整備事業	7
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 城下町大聖寺に見る歴史的風致	8
2 温泉文化に見る歴史的風致	9
3 「ぐち」なものづくりに見る歴史的風致	10
4 浜辺のいとなみに見る歴史的風致	11
5 大聖寺川・動橋川流域の生活文化に見る歴史的風致	12
■ 庁内体制シート（様式6）	13
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	14
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	15

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
<b>① 歴史的風致</b>			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町大聖寺に見る歴史的風致	I、II、III	
2	温泉文化に見る歴史的風致	II、III	
3	「ぐち」なものづくりに見る歴史的風致	III	
4	浜辺のいとなみに見る歴史的風致	I、III	
5	大聖寺川・動橋川流域の生活文化に見る歴史的風致	I、III	
<b>② 歴史的風致の維持向上に関する方針</b>			
	方針		
I	歴史的建造物の保全・活用		
II	歴史的町並み環境保全・形成		
III	伝統行事などの伝統文化の継承及び歴史的風致の情報発信と活用		
<b>③ 歴史まちづくりの波及効果</b>			
	効果		
i	景観整備等による観光客入込客数の増加		
<b>④ 代表的な事業</b>			
	取り組み	事業の種別	
A	錦城山公園修景整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
方針	I 歴史的建造物の保全・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】重点区域である大聖寺には、国指定の重要文化財である江沼神社長流亭をはじめ、江沼神社庭園や錦城山公園（大聖寺城跡）といった歴史的建造物や伝統的な町家など多くの歴史的資源が残っており、城下町大聖寺の風致を形成している。歴史的・学術的に価値の高いものは文化財保護法等に基づく文化財の指定などにより、保存や活用のため必要な措置を講じてきた。しかし、それらは区域内に所在する歴史的建造物の一部であり、未指定の歴史的建造物には十分な対応が出来ていない。

【方針】旧大聖寺藩邸庭園である江沼神社庭園、大聖寺城跡といった存在する文化財や歴史的建造物については、文化財保護制度等を活用しながら適切な維持管理を行うとともに、未指定の歴史的建造物についても調査を進め、必要に応じて指定・登録を行うことで保存を図る。また、建造物の修理や活用に対する支援を行い、地域住民と協働して歴史的景観の維持と活用を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	錦城山公園修景整備事業	錦城山公園の入口部を修景整備	あり	R元～R12
2	江沼神社庭園整備事業	江沼神社庭園保存活用計画の策定及び実施設計の作成と整備工事を発注	あり	H28～R12

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■ 錦城山公園修景整備事業

錦城山公園では、かねてより公園入口部が分かりにくく閉鎖的な空間となっていたことから、入口部の修景整備（A=2,000㎡）を実施した。令和3年度より調査・設計を行い、令和7年度に整備が完了した。これにより、開放的な空間へと生まれ変わり、良好な景観の形成を図ることができた。



R3

■ 江沼神社庭園事業

江沼神社庭園は、老朽化や景観の劣化が見られることから庭園の環境整備が求められていたため、令和6年9月に保存活用計画を策定した。この計画に基づき整備工事の実施設計を行うとともに、令和7年度には4回の専門委員会を開催し、庭園整備において意見を聴取し、大名庭園の面影を残した修景整備となるよう設計に反映させ、これらを踏まえ、年度末に工事に着手した。



錦城山公園修景整備事業 R7

④ 自己評価

園路や広場の整備において、景観に配慮した施設整備を進めることで、公園の利用環境の改善と歴史的景観の保全を推進することができた。江沼神社庭園整備において、史跡の保存・活用を踏まえた設計となった。」

⑤ 今後の対応

江沼神社庭園や錦城山公園（大聖寺城跡）、長流亭といった重要な歴史的建造物でもあり、観光資源が集中しているこの錦城山周辺において、今後も保全・活用を図りながら事業を進めていく。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅱ 歴史的町並み環境保全・形成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

大聖寺には、城下町の町割りや文化を反映した町並みが残されている。しかし、人口減少や建物の老朽化、空き家の増加などにより、歴史的町並みの維持が課題となっている。また、歴史的景観に配慮しない建物の建替えや改修が行われた場合、町並みの連続性が損なわれるおそれがある。

このため、歴史的建造物の保全とともに、町並み全体の景観形成を図る取組が求められている。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的都市構造保存整備	散策路L=134mを整備	あり	R3～R12
2	空地活用整備	ポケットパークの整備箇所を地元と協議	あり	R3～R12
3	松島橋の架け替え	R4年に新橋設置完了しR6年に旧橋撤去完了	あり	H28～R6
4	町名の普及啓発及び由緒等整備	R4より大聖寺の町名の由来を市広報誌にて掲載	あり	R3～R12
5	町並み景観形成	3件に助成	あり	H11～
6	歴史的風致形成建造物修理	24件指定し、1件助成	あり	R3～R12
7	町屋再生	3件助成	あり	H18～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

■歴史的都市構造保存整備

錦城山公園入口部の散策路L=134mを修景整備し、良好な景観を創出することができた。

■松島橋の架け替え

老朽化に伴う橋の架け替えに際し、地区の歴史性や周辺環境との調和した橋梁とするためデザイン検討会を開催し、設計整備を実施。

■歴史的風致形成建造物修理

歴史的建造物の所有者の協力のもと、令和4年度に歴史的風致形成建造物を24件指定し、令和7年度に1件助成を行い、歴史的風致の保存を図った。

■町屋再生

歴史的景観の保全や、まちなかの賑わい創出を図るため、令和4年度に1件、令和7年度に2件の助成を行った。その結果、大聖寺町屋の保存・活用が図られた。



R3



町屋再生

R4

④ 自己評価

景観整備事業や町屋再生、歴史的風致形成建造物修理を着実に実施することにより、城下町大聖寺に現在も残っているまちなみ景観を保存・活用に寄与することができた。

⑤ 今後の対応

錦城山周辺の散策路整備や旧北國街道の美装化により、大聖寺の景観と調和した散策ルートを形成するとともに、沿道建造物の保存・活用を継続的に実施することで、城下町大聖寺の景観保全と賑わい創出を図っていく。また、令和6年1月1日の震災被害を受けた歴史的風致形成建造物等の復旧について、助成の検討を進めていく。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
方針	Ⅲ伝統行事などの伝統文化の継承及び歴史的風致の情報発信と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

少子高齢化などによる人口減少や地域コミュニティの希薄化といった社会環境の変化によって、地域固有の伝統行事や祭礼の後継者の育成が困難になっている。市民が身近に接する機会として伝統行事の稽古、発表の場を設けたくても、指導者の人材不足や若年層の興味関心の低下などにより設け難い状況にある。活動の継承につながる支援や仕組みのほか、地域団体や住民主体の各種団体の協力体制も不可欠となっている。

文化振興拠点施設（展観施設・文化施設）は、施設の老朽化による修繕箇所が増加し、歴史的建造物の維持管理および活用が求められている。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	伝統芸能の活動支援	お松囃子の継承活動に対する補助	あり	H17～
2	伝統芸能後継者育成	能楽教室の開催	あり	R4～
3	茶の湯文化普及啓発	九谷焼美術館でのお茶会の開催 年2～3回程度	あり	H14～
4	和菓子文化普及啓発	九谷焼美術館でのお茶会および2階 茶房古九谷での和菓子の提供	あり	H14～
5	歴史的人物の活用	大聖寺鴻玉荘での企画展開催 年2～3回程度	あり	R3～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

錦城能楽会は、かつて200人以上の会員がいたが、現在は30人程度に減少している。後継者不足や、市民の誇りとしての能の振興を図るため、また加賀市無形文化財であるお正月の伝統行事「お松囃子」を継承するためにも、保持団体である錦城能楽会に対して補助を行い、活動支援してきた。能楽の普及啓発、伝統芸能を担う人材育成のため、能楽教室の開講、能公演、錦城能楽会会員が市内小学校を巡回しての能楽ワークショップ等を行ってきた。これらの活動から、錦城能楽会への入会者や、能楽の稽古の継続を希望する者が出てきている。

文化振興拠点施設（展観施設・文化施設）のひとつとして、市有化した旧新家住宅の大規模改修を行い、「大聖寺鴻玉荘」としてオープンし一般公開することができた。



能楽教室参加者募集のチラシ



大聖寺鴻玉荘 展示の様子

④ 自己評価

重点区域である大聖寺の伝統芸能（祭礼）である能楽を継承しようとする人が増えているのは、大きな成果と言える。また、歴史的建造物である大聖寺鴻玉荘を公開し、大聖寺ゆかりの人物や資料などを展示することで、城下町大聖寺の歴史や文化を発信できた。

⑤ 今後の対応

引き続き、地元の伝統芸能団体への活動支援を行うとともに、人材不足を解消するための事業を実施し、さらなる後継者の育成と伝統芸能・文化の継承を目指す。

文化振興拠点施設（展観施設・文化施設）については、計画的に適宜修繕を行うことで、施設の維持管理に努めるとともに、積極的に情報発信を行うことで活用を図り、観光誘客にも繋げていく。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年																
効果	i 景観整備等による観光入込客数の増加																		
<p>① 効果の概要</p> <p>景観整備前に比べ、市内への観光入込客数が増加した</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>江沼神社庭園保存活用計画</td> <td>なし</td> <td>R6</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	江沼神社庭園保存活用計画	なし	R6	2				3			
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	江沼神社庭園保存活用計画	なし	R6																
2																			
3																			
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>令和3年3月に加賀市歴史的風致維持向上計画を策定し、主に重点区域である城下町大聖寺を中心に整備を行ってきた。また、令和6年度に江沼神社庭園整備活用計画を策定し、江沼神社庭園の保存及び活用の方針や整備に係る方向性を定め、令和7年度から環境整備工事に着手した。</p> <p>令和7年9月に大聖寺城跡が国史跡に指定されたことで、全国的に注目され、山城ファンをはじめ、地元からも多くの人々が訪れるようになった。ちょうど大聖寺城跡への入り口となる錦城山公園の整備が進んだことで利用者が増えたことも、相乗効果として来訪者の増加につながったものと考えられる。</p> <p>国史跡への指定記念として、山城好きでも知られる落語家の春風亭昇太氏を招いてシンポジウム「昇太さんと語る 大聖寺城跡」を開催し、約500人からの参加申し込みがあり、抽選で300人が参加した。このシンポジウムを機に市内外に城下町大聖寺の魅力を伝えることができた。</p>																			
<p>④ 自己評価</p> <p>加賀市歴史的風致維持向上計画に加え、国の重要文化財「長流亭」を配する江沼神社庭園整備活用計画に基づいて整備を進めたことで、観光資源としての魅力も高まり、コロナ禍で激減した観光客が順調に増えている。令和7年は大阪万博の開催で関西方面に流れて若干減少したものの、外国人観光客、特に歴史や文化に興味関心が高い欧米系の観光客が順調に伸び、過去5年間で最多となった。</p>		<p>外国人観光客数 (宿泊+日帰り)</p> 																	
		 <p>大聖寺城跡 国史跡指定記念 シンポジウムのチラシ</p>																	
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>今後も整備を行っていくことで、当市独自の歴史的風致や伝統文化の維持向上を目指す。重点区域での整備を進めていくことで、城下町としての魅力を高め、それがひいては加賀温泉郷全体の観光入込客数の増加や経済波及効果につながるよう努めていく。</p> <p>歴史的な街並みや文化を市ホームページやSNSを活用して発信することで、さらなる観光誘客を図る。</p>																			

市町村名	加賀市	評価対象年度	R7
取り組み	A 錦城山公園修景整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

大聖寺城跡は、別名「錦城山」と呼ばれ、江戸時代には一般人の立ち入りが禁じられていたことから、当時の遺構が良く残り、織豊時代における近世城郭の成立過程や伝播を知るうえで貴重な城跡である。現在も大聖寺の住民のシンボリック的存在であり、保存会による活動等が行われているが、遺構の保護、顕在化に留意しながら再整備することで、大聖寺城の存在を一層体感できる史跡公園となり、利用者の増加が期待できる。また、かねてより公園入口部が分かりにくく閉鎖的な空間となっていたことから、入口部の修景整備（A=2,000㎡）を実施した。

（整備概要）

敷地造成、側溝、石畳風舗装、駒留、石積み、中央階段、電気配管、庭園灯、公園照明灯張芝、車道舗装、電柱移設



整備前



整備後

② 自己評価

大聖寺城跡は、令和7年9月に国史跡の指定を受けた。その後、シンポジウムの開催等により、これまで関心の低かった層に対して歴史的風致への意識向上を図ることができた。また、次年度以降に着手する保存活用計画の策定に先立ち、城郭・城下町・天然記念物の各分野の専門家から意見聴取を行い、計画策定に向けた方向性を確認した。さらに、史跡指定範囲外である公園入口部については、史跡への入口と位置づけ、従来の分かりにくく閉鎖的な空間の改善を目的として修景整備（A=2,000㎡）を実施し、令和7年度に完了した。これにより、多くの市民が利用しやすい環境となった。

外部有識者名	金沢学院大学 名誉教授 馬場先 恵子（加賀市歴史的風致維持向上協議会会長）
外部評価実施日	令和8年3月18日

③ 有識者コメント

- 従来の公園入口部は擁壁によって閉ざされた閉鎖的な空間であったが、整備により、擁壁を撤去し、芝の法面や石積みを施したことで、開放感のある空間となった。
- 国史跡としての指定を受けたことから、今後、より適切に保存・継承していく必要があるため、保存管理の方針や活用方針について、十分に検討を進める必要がある。

④ 今後の対応

国史跡大聖寺城跡の保存基準を定めて、活用方針を示すことが急務であるため、まずは保存活用計画を策定し、その後、整備等の活用をはかるための基本計画策定を目指す。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	1 城下町大聖寺に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用                      II 歴史的町並み環境の保全・形成 III 伝統行事などの伝統文化の継承及び歴史的風致の情報発信と活用		

① 歴史的風致の概要

城下町大聖寺は、溝口秀勝（みぞぐちひでかつ）、山口玄蕃（やまぐちげんぱ）、前田家によって治められ、城下町として整備されてきた。浄土真宗の寺は城下の町中に、越前との国境付近には曹洞宗、日蓮宗、法華宗、浄土宗の寺院が連なるなど、多数の寺社がある。菅生石部神社では、御願神事（ごんがんしんじ）や敷地天神講（しきじてんじんこう）が行われ、市を代表する年中行事となっている。また、大聖寺藩主が推奨した能楽、坂網猟（さかあみりょう）、茶の湯といった伝統猟法や芸術、たしなみの文化は、現在も継承されている。藩政時代に前田家の気風を背景に醸成された文化は、今日の加賀市の礎ともいえる城下町大聖寺の文化を築いた。

② 維持向上の経緯と成果

城下町におけるハード整備として、江沼神社庭園整備事業を進めてきた。城下町の機軸をなす旧大聖寺藩邸に附属する庭園が、江沼神社境内地として現在まで継承されたもので、令和3年度に文献調査、令和5年度に名勝調査を行い、既存条件の整理を行った。令和5年度から保存活用計画策定に着手し、令和6年度に計画を策定した。これに基づいて令和7年度に基本設計を終え、令和7度より環境整備工事に着手した。令和9年度の公開開始を目指す。



江沼神社庭園整備委員会 R8.2月

工事の目的は大名庭園が本来持っていた環境を取り戻すことで、園池の環境整備や樹木の整理を中心とする。

藩政時代から片野鴨池で行われている坂網猟法は、令和7年に石川県無形民俗文化財の指定を受けた。今後、猟法の継承をはかるため、市民への普及啓発事業を行って後継者確保の一助としたい。



長流亭 R7.4月

かつて盛んに行われていた能楽の普及についても、実行委員会を設置して能楽教室や公演など、様々な普及啓発事業を行った。城下町を中心に活動する錦城能楽会の若手会員の確保にもつながっており、一時は危機的であった錦城能楽会の存続状況が改善している。

③ 自己評価

江沼神社庭園の環境整備は、令和7年度から工事に着手できた。計画策定の過程では、地元住民と話し合う機会を多く持つことに努めたため、歴史的風致を向上する重要な物件として江沼神社を位置づけることが出来た。

また、坂網猟法や能楽など、加賀市および城下町重点区域を特徴づける文化についても市民の意識を高めることが出来た。



坂網猟法保持団体総会 R7.11月

④ 今後の対応

引き続き、ハード整備を継続していく。整備工事を進めるにあたっては、常に住民に開かれた事業とすることを心がけ、公開可能なところは積極的に公開していく予定。

ソフト面では、普及啓発に留まらず、継承者育成、他地域との連携を探り、歴史的風致の維持向上を図っていく。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	2 温泉文化に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的町並み環境の保全・形成 Ⅲ 伝統行事などの伝統文化の継承及び歴史的風致の情報発信と活用		

① 歴史的風致の概要

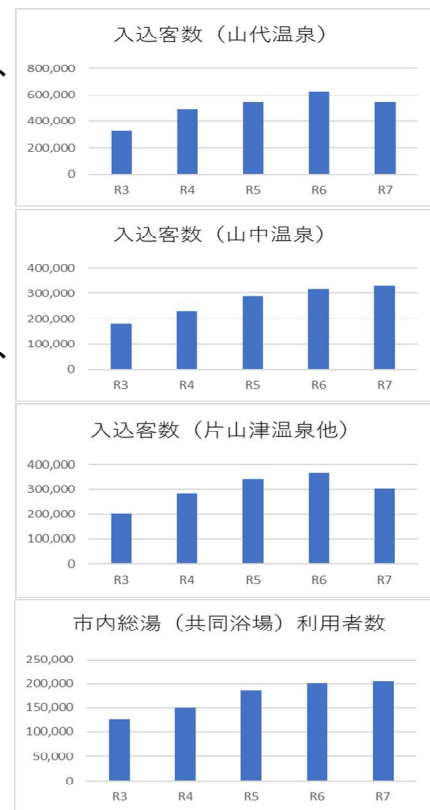
白山山系の火山活動は温泉の恵みをもたらし、加賀市には山代（やましろ）、山中（山中）、片山津（かたやまづ）の三つの温泉があり、発展を遂げてきた。山代、山中の両温泉は、開湯から1,300年にも及ぶ歴史を有し、既に中世には湯治場として知られていた。明治期以降に開かれた片山津温泉も含め、近代以降は国内有数の加賀温泉郷として知名度を上げ、さらなる発展を遂げてきた。それぞれの温泉は、近在近郷のみならず、様々な地域の人々が集う共同浴場「総湯（そうゆ）」を中心とした交流の場になるとともに、湯治客へのもてなしの文化が醸成され、今日も継承されている。

② 維持向上の経緯と成果

令和2年に発生した新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受け、市内宿泊施設における年間入込客数は大幅に減少し、前年比57%であった。令和3年も引き続きコロナ禍で低迷し、前年比72%であった。令和4年は、コロナ禍の影響がありつつも、感染症まん延防止等重点措置が終了し、自粛を強いられてきた行動が徐々に動き出し、市内宿泊施設の入込客数は前年比138%となった。さらに、令和5年は全国旅行支援の継続と新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことで行動の自粛が解除され、市内宿泊施設の入込客数は前年比117%となり、温泉街にも賑わいが戻りつつあった。

しかし、令和6年1月1日に発生した能登半島地震で、加賀市も大きな被害を受け、加賀市の観光産業においても、市内宿泊施設や観光施設の一部では休業を余儀なくされた。そのような状況の中ではあったが、市内宿泊施設では二次避難所として延べ2,500人を超える被災者を受け入れ、支援してきた。3月には念願の北陸新幹線加賀温泉駅が開業し、コロナ禍からの回復と能登半島地震からの復興を目指して取り組んできた。市内宿泊施設の入込客数は前年比111%であった。

令和7年は能登半島地震の復興も進み、市内宿泊施設も二次避難所としての役目を終えて被災者が帰還したことと、北陸新幹線延伸開業効果の落ち着きが見られたことから、市内宿泊施設の入込客数は前年比90%となった。



③ 自己評価

観光客だけでなく、地域住民にも総湯（温泉の共同浴場）文化を広めていくことで、歴史的風致の継承に努めてきた。また、総湯を維持するために市も連携して施設管理を支援するなど、温泉文化に見る歴史的風致の維持向上に寄与することができた。

その他、各温泉地におけるハード整備として、山代地区では「萬松園あいうえおの杜」（令和7年8月開園）、山中地区では「加賀依緑園」（令和6年4月開園）、片山津地区では「柴山湯湖畔遊歩道」（令和6年6月開通）を整備した。これらの整備により、各温泉地の魅力が向上するとともに、来訪者が温泉街を周遊しやすい環境が形成され、温泉文化に触れる機会の創出にもつながり、温泉文化に見る歴史的風致の維持向上に寄与した。

④ 今後の対応

引き続き、山代、山中、片山津の三温泉を中心とした歴史的風致の維持向上に努めていくとともに、自然や食などの魅力も活用して付加価値を高め、加賀温泉郷としての国内外への情報発信に注力していく。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	3 「ぐち」なものづくりに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 伝統行事などの伝統文化の継承及び歴史的風致の情報発信と活用		

① 歴史的風致の概要

「ぐち」とは、「こだわり」や「細やかさ」をあらわす当地のお国言葉である。近世以降、大聖寺藩が殖産興業に注力したことにより、多彩なものづくりが発展するとともに武家の気風や温泉地で醸成されたたしなみの文化は、九谷焼や山中漆器をはじめとする高度な工芸技術を生み出し、現在に受け継がれている。当地の九谷焼は江沼九谷と呼ばれ、今も1点1点の手書きにこだわるなど「ぐち」なものづくりが多く作家によって継承されている。山中漆器においても、生産工程には木地、塗り、蒔絵(まきえ)の工程があるが、特に轆轤挽物木地においては他産地の追随を許さないレベルの高さを保持し、「山中木地挽物技術」として県指定の無形文化財になっている。

② 維持向上の経緯と成果

石川県無形文化財の指定を受けている山中木地挽物技術について、文化庁補助事業として伝承者養成を行った。この事業は平成30年から継続して行っているもので、伝承者養成のため、指導者一人に研修生一人が付く形で個別研修を主に行っている。令和3年度から令和7年度の伝承者は以下のとおりである。

- R3 4名
- R4 4名
- R5 3名
- R6 4名
- R7 4名

山中木地挽物技術を後世に伝えていくため、研修を通じて技術を伝承し、将来の保存会正会員を増やしていくことを目指しているが、正会員になるためには20年の実務経験が必要となる。研修を受けた方が、資格を得るまでに山中木地挽物保存会とのつながりを保ち続けられないことが課題であった。

令和6年度から伝承者養成事業の効果向上を図るため、令和7年度から1日研修を取り入れた。同時に、山中木地挽物保存会の下部組織として伝承者養成事業運営委員会を設置し、講師陣の考えを事業に反映できるようにした。令和8年度以降は、さらに多様な研修メニューを揃え、伝承者育成に取り組む体制を整えていく予定としている。



山中木地挽物保存会 R7.8月



県立美術館収蔵品見学 R7.9月



成果発表会 R7.3月

③ 自己評価

研修を受講できるのは1人につき3年までで、保存会準会員となるまでに長い時間を要する。研修終了後の受講生の取り扱いが大きな課題であった。1日研修や短期研修の導入により、過去の受講生や、当該年度に研修生を持っていない保存会員が催事に参加できるようになり、保存会全体で将来の伝承者を育てていく機運が高まってきている。

④ 今後の対応

伝統技術の継承には長い時間を必要とするため、技術が伝承されるまで、研修生が木地挽物を続けていく環境を整えることが課題となっている。また、どの段階で技術が伝承されたと認証するかがも課題のひとつ。山中木地挽物は、元々は親族間での世代間技術伝承を中心としていたため、血縁・地縁が無い人への伝承をどのように引き継いでいくのかを検討しなければならない。近隣の技術保存会の事例を研究していく。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	4 浜辺のいとなみを見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 伝統的建造物群保存地区の保全活用 III 伝統行事などの伝統文化の継承及び歴史的風致の情報発信と活用		

① 歴史的風致の概要

江戸から明治にかけて物流の大動脈を担った「北前船(きたまえぶね)」は、市内の経済発展の基盤となり、幕末のころは大聖寺藩の財政を支えるほどの富を築いた。近世以降、陸上交通が発展し北前船は姿を消したものの、厳しい日本海の船上で命を懸けた男たちの危険を恐れず、困窮に耐え、未知の世界に挑む北前魂というべき気風は、今日に受け継がれている。北前船の船主集落であった橋立(はしたて)地区は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、豪壮な船主邸が点在する町並みが維持・形成されている。船主たちは、交易によって地域の経済や教育の発展に大きく貢献するとともに、各地からの文化を伝え、市の浜辺の文化を形成していった。

② 維持向上の経緯と成果

◆歴史的建造物の積極的な保存と活用(建造物の修繕)

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている加賀橋立地区において、5年間に計10件の建造物及び工作物の保存修繕を行った。

- R3 保存修繕 N=3件(建造物N=2件、工作物N=1件)
- R4 " N=1件(建造物N=1件)
- R5 " N=2件(建造物N=2件)
- R6 " N=3件(建造物N=2件、工作物N=1件)
- R7 " N=1件(建造物N=1件)



中越家脇門保存修繕前 R7.6月



中越家脇門保存修繕完了 R8.1月

◆歴史的町並みの保全(修景の整備)

車の往来によって石畳のようなデザインの舗装が損壊していたため、山崎通りの修繕を行った。

◆歴史的町並みの後継者育成と情報発信

重伝建地区の保存のためには、建造物の修繕だけでなく、建物を管理・活用する担い手(住民)や、保存の取り組みの担い手(町並み保存会)の育成が必要である。5年間に渡り、加賀橋立まちなみ保存会(住民等で組織)の活動に対して助成を行い、保存会が主催する北前船関連の祭りやイベントを開催し、市も連携して講演会や町歩きを行うなど周知活動を実施してきた。

また、地区内3か所に多言語機能を施したコンテンツ(デジタルマップ、デジタルストーリーブック、バーチャル空間)に繋がるQRコードを設置し、訪れる観光客に向けて情報発信を行った。



伝建選定20周年・日本遺産認定8周年記念イベント(R7.11月)

③ 自己評価

北前船船主集落として計画的な建造物の修繕による保存と活用、および修景整備による町並みの保存といったハード事業に加え、歴史的町並みの後継者育成を目的とした行事や情報発信などのソフト事業の実施により、浜辺(橋立地区)の営みに見る歴史的風致の向上に寄与することができた。

④ 今後の対応

引き続き、ハードとソフトの両事業で保存活動を進めていくことで、浜辺(橋立地区)の営みに見る歴史的風致の向上に努めていく。計画的にハード整備に取り組んでいくことで、今後も船主集落としての歴史的町並みの保全を図るとともに、担い手育成や観光誘客を目指す。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
歴史的風致	5 大聖寺川・動橋川流域の生活文化に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 III 伝統行事などの伝統文化の継承及び歴史的風致の情報発信と活用		

① 歴史的風致の概要

大聖寺(だいしょうじ)川と動橋(いぶりはし)川の2つの流域は、古代から加賀国江沼郡(えぬまぐん)として、政治的または文化的なまとまりとして捉えられ、今日の加賀市として継承される。山間地域、丘陵・台地、低地、海、湖の海岸等の多様な環境は、有史以来の長い歴史の中で、自然に対応した様々な生活や生業に関する技術や習俗等を育み、加賀市の歴史文化を醸成してきた。山間部では、大聖寺藩の御用炭の生産が行われ、炭焼きを生業としていた当時の生活文化が集落の行事として継承されている。また、中～下流域においては、藩命によって導入された茶づくりや河川と生活の密接な関りの中で生まれた「ぐず焼まつり」など、今も行われている。

② 維持向上の経緯と成果

両河川の流域は文化財の宝庫であり、多くの指定記念物(史跡・名勝・天然記念物)が分布している。しかし現地説明看板が無かったり、老朽化して読みづらくなっているものが多い状況であった。

令和3年度から指定記念物の説明看板更新に着手し、令和7年度までに分校古窯跡群(市史跡)、篠原のキンメイチク(国天然記念物)、片山津玉造遺跡(市史跡)、柴山貝塚(市史跡)、富塚丸山古墳群(市史跡)、分校古墳群(市史跡)の6箇所説明看板を造り替えた。また、動橋川流域にある国史跡狐山古墳は、古墳の形が見えないほど樹木が生長していたが、令和5年度に樹木を伐採し、墳丘がはっきりと可視化されるようになったため、見学者が増加した。

これらの環境整備とともに、狐山古墳や分校古墳群、分校古窯跡群などでは、住民の手による史跡の維持管理活動が活発に行われるようになった。また、狐山古墳では周辺の土地所有者が菜の花を植えて春の景観づくりを自発的に行っている。分校古墳群で毎年行われているササユリ群生地見学会についても、地区住民による古墳群説明会を同時開催するなど、積極的な活動が行われている。

また、川の上流域にある加賀東谷において、重要伝統的建造物群保存地区としての景観を維持するべく修繕を行ってきた。



片山津玉造遺跡 R.5.8月



狐山古墳 R6.4月



分校地区史跡保存会 R7.6月

③ 自己評価

記念物説明看板の更新により、地域の住民が記念物への関心を高めている。維持管理活動への参加が積極的になり、自発的な活動が文化財保護に影響しないかどうか問い合わせる事例が増えた。また、説明看板や環境整備をまだ行っていない記念物を持つ地域住民から、地域で出来ることについての問合せが増え、歴史的風致への関心が高まっている。

④ 今後の対応

説明看板の更新を継続して実施する。その過程で地域住民との接点を増やし、地域住民による記念物の維持管理活動や活用事業の実施を支援していく。

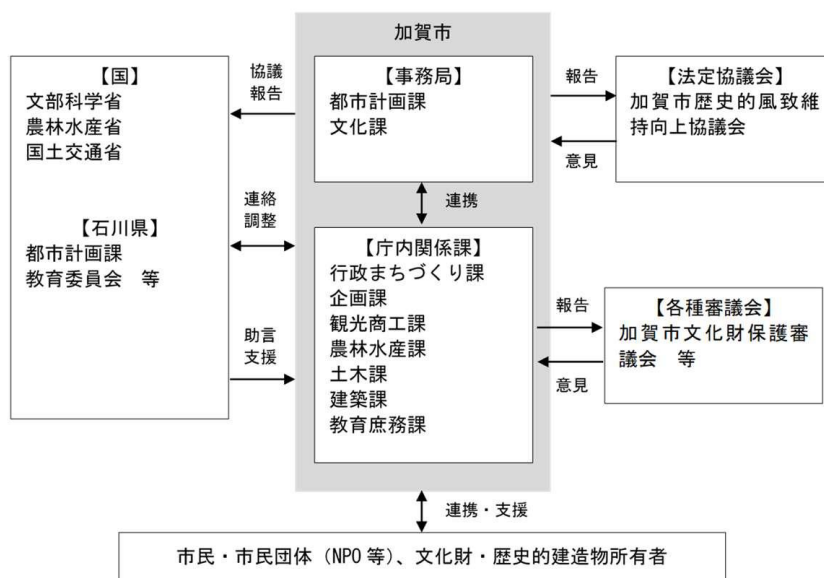
重伝建地区の加賀東谷においても、継続して指定物件の修繕支援等を行い、赤瓦と煙出しの里として、の景観の維持に努めていく。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

加賀市歴史的風致維持向上計画の推進体制は、事業推進に関係の深い部署である建設部都市計画課と教育委員会事務局文化課を事務局とした庁内推進組織を設置し、毎年定期的に庁内関係課と幹事会を開催し、情報共有及び連携の強化を図っているまた、それとともに、歴史まちづくり法第11条の規定に基づく「加賀市歴史的風致維持向上協議会」において、計画の推進や変更等の連絡・調整・協議等を行い、事業の推進を図っている。さらに、必要に応じて、加賀市の都市計画や景観、文化財保護等に関する審議会、並びに文化財や歴史的建造物の所有者等と連絡調整を行い、計画の円滑な推進を図っている。

加賀市歴史的風致維持向上計画の推進体制



歴史的風致維持向上計画幹事会（R8.2.8開催）

② 庁内の意見・評価

（庁内からの意見）

- ・歴史的風致維持向上計画における取り組みは、都市計画、土木、建築、文化、観光商工など多様な専門分野にまたがる部署が連携して業務を遂行することが必須だが、現状の体制では担当者の異動でそれまでの知識や経験が途切れたり、他部署との連携不足で情報共有が十分になされなかったりして、今は大丈夫だが、将来、円滑な業務の遂行に支障が出るかもしれない。専門部署を設置している自治体もあると聞く。
- ・現状は、部局横断的に幹事会を設置して情報共有を図り、各分野の職員が専門性を十分に発揮して円滑に遂行できている。専門部署を設置できるほど豊富な人員がいがないため、引き続き現体制を維持し、十分に連携しながら歴史的風致の維持向上に取り組んでいく。

市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
------	-----	--------	--------

## ① 住民意見

- ・長い目で見たときに手戻りや無駄がないよう、中長期的な計画の中で効率的、効果的に整備を進めていってほしい。
- ・大聖寺城下町の整備全体を考えると、壮大な話になる。まずは、大聖寺城跡が優先。それが完了したら、大聖寺城跡のふもとであるアリアを整備していくという順でやってほしい。
- ・若い世代にはなかなか理解が得られないかもしれないが、町家が歯抜け状態で、どんどん消滅している。町家が連なる景観は大聖寺城下町ならではの趣があるので、ぜひ面で整備して再生事業を継続していってほしい。
- ・伝統芸能を継承するために、文化課で能のまちを目指して色々取り組んでおられるが、その取り組みのひとつである「能楽教室」では、謡と仕舞だけでなく、囃子方(特に大鼓)コースも設けてほしい。なかなか成り手がいない。
- ・現計画が5年たち、あと後半の5年が残っているが、次の10年を見据えて歴史的風致の維持向上を継続していってほしい。町家が歯抜け状態。面で整備していくことが重要。

重点地域住民から意見聴収



## ② 協議会におけるコメント

- ・評価について、次の10年を見据え、ただ実績を記載するだけでなく、具体的な目標を記載し、どれだけ達成できたかを記載する必要がある。
- ・ポケットパーク整備後の維持管理について、後々トラブルとならないよう、管理予定者である地元住民と綿密に協議してほしい。
- ・風傳流槍術について、当時の流儀を継承したのか確認が必要である。武術や剣術はブームになりやすいため、作られた歴史とならないよう、十分に確認いただきたい。



市町村名	加賀市	評価対象年度	R3～R7年
<p><b>① 全体の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加賀市の歴史的風致の維持向上のため、今後も継続して事業を進めることが必要。</li> <li>・専門部署がなく、多様な部署と連携しながら取り組んでいるため、職員の異動や他部署との連携不足によって情報共有がないまま事業を遂行してしまう可能性がある。</li> <li>・重点地区における町家は、歴史的な町並みを形成する重要な構成要素であるが、そのことを所有者があまり認識していなかったり、住環境の改善を優先してしまったりし、滅失が進んでいる。</li> <li>・保全に向け、改修や修繕などの費用の増大、住民の意識の醸成が課題。また、高齢化等によって担い手不足も大きな課題。</li> </ul>			
<p><b>② 今後の対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して各種事業と施策を展開し、都市計画、土木、建築、文化、観光商工など多様な専門分野にまたがる部署が連携しながら、歴史的風致の維持向上に取り組んでいく。</li> <li>・重点区域の主たる景観を形成している指定物件の修繕については、引き続き支援を行っていくとともに、さらに拡充した支援を行えないか検討していく。</li> <li>・地域の協力と意識の醸成は不可欠であるため、あらゆる機会を利用して周知徹底や意識の醸成に努めていく。担い手不足対策としては、継続的な維持管理が可能となるよう、施設の規模や内容について検討していく。 事業の費用対効果を十分に検証し、必要に応じて計画を見直ししながら、歴史的風致を維持し、地域の活性化を目指す。</li> </ul>			